

## (代表質問)

質問日	令和6年12月6日(金)		質問方式	分割方式			
質問順位	1	会派名	自由民主党浜松	議席番号	30	氏名	松本 康夫
表 題	質 問 内 容					答弁者の職名	
1 総合計画次期基本計画について	<p>市長の地方創生の決意に基づき、「戦略計画2024」に基づく施策を進める中、これまでの少子化・人口減少対策の評価や課題、施策の違いについて、市民は高い関心を寄せている。また我が会派も、人口減少に関連した子育て支援対策では、子どもたちの未来に責任を持ち、5歳児健診体制の構築について、11月14日に市へ要望書を提出したところである。</p> <p>そこで、総合計画次期基本計画について以下伺う。</p> <p>(1) 市長が描く浜松市の理想の姿とは</p> <p>(2) ウェルビーイングを活かした『選ばれるまち』への戦略について</p> <p>(3) ウェルビーイングと経済活動の両立と価値について</p> <p>(4) 区政運営方針の位置づけと目指す方向性について</p>					中野市長	
2 令和7年度予算編成について	<p>本市においては、令和7年度予算編成は総合計画次期基本計画や新中期財政計画との長期的整合性を図るための最初の一步となる重要な予算編成である。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 令和7年度予算編成に対する市長の意気込みについて</p> <p>(2) 令和7年度予算編成方針について</p>					<p>中野市長</p> <p>鈴木財務部長</p>	

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>3 財政健全性と課題対応のための新たなアプローチについて</p> <p>(1) 市債残高削減から積極財政への転換について</p> <p>(2) 優先投資と財源確保の方策について</p>	<p>本市の財政状況は極めて健全な状態となったが、今後は資産の老朽化や防災減災対策の強化といった様々な課題への挑戦と投資が急務であり、この課題は財政健全化に偏ったアプローチだけでは対応しきれていないところまで進み始めている。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 市債残高の削減に固執するのではなく、必要な投資や将来の課題への対応を優先すべきと考える。総合計画次期基本計画期間における新中期財政計画の策定に関する方向性や考え方について、市長の見解を伺う。</p> <p>(2) 課題解決に向けて必要な投資を優先的に実施するため、市として次期財政計画への各個別計画の反映の考え方と財源確保の方策について伺う。</p>	<p>中野市長</p> <p>鈴木財務部長</p>
<p>4 魅力ある地域づくりの実現に向けて</p>	<p>遠州灘海浜公園篠原地区周辺の開発は、地域にとって大きな転換期を迎えている。県との協議の準備なども進んでいるが、地域独自の視点を反映するため、市民ワークショップやオンラインプラットフォームにおいて幅広い世代から意見を収集し、すべての市民が未来づくりに参加できる場が必要である。</p> <p>特に、次世代がまちづくりに関心を持ち、未来を描ける「キャンパス」型の参加プログラムを提案する。子どもたちの視点を取り入れることで、次世代に必要なまちづくりが進み、地域の魅力がさらに高まると期待されるが、市長の考えを伺う。</p>	<p>中野市長</p>
<p>5 舘山寺総合公園の未来に向けて</p> <p>(1) 浜名湖花博2024と舘山寺総合公園の今後に向けて</p> <p>(2) 動物園とフラワーパークの連携強化に向けて</p> <p>(3) 動物園の教育プログラムの充実に向けて</p> <p>(4) 動物園再生に向けて</p>	<p>(1) 浜名湖花博 2024 を踏まえ、はままつフラワーパークを世界的な植物園へと発展させ、ひいては舘山寺総合公園全体を国際的な施設に成長を目指すべきと考える。国内外から注目される施設へと成長させるためには、どのような取組が不可欠だと考えるか、花博で得られた成果と合わせて伺う。</p> <p>(2) 花博期間中に動物園とフラワーパークが連携した取組があったが、今後の連携強化について具体的な計画を伺う。</p> <p>(3) 飼育動物の多様性や希少性の向上、そして、来園者が動物たちの生態や環境問題についてより深く理解できるよう、教育プログラムの強化について伺う。</p> <p>(4) 動物園の施設更新と魅力アップを目指し、「動物園再生基本計画」の改定が進められているが、動物園の広大な敷地を活かした新たなシンボルとなる動物の導入を推進すべきである。具体的な投資計画を策定し、長期的な視点で段階的な取組を進め、施設の改善・拡充を強く</p>	<p>中野市長</p> <p>中村花みどり 担当部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	進めることが重要と考えるが何う。	
<p>6 路線バスのネットワーク形成に向けて</p> <p>(1) 路線バスの取組について</p> <p>(2) 地域公共交通の再構築制度について</p>	<p>総合計画次期基本計画においては、6つのまちづくりの基本理念が示された。市民の移動手段を確保し、地域全体の活性化を図るためにも、新たな財源の確保や効率的な運行システムの構築など、多角的な取組が求められる。行政、交通事業者、そして市民が一体となった取組が必要である。</p> <p>そこで、以下何う。</p> <p>(1) 路線バスに対する現状の認識とこれまでの取組について何う。</p> <p>(2) 現在、国では地域公共交通の利便性・生産性・持続可能性を高める取組として、乗り継ぎ拠点の整備などの補助を行う「地域公共交通の再構築制度（リ・デザイン）」を立ち上げ、地域の公共交通に対して支援を行っている。本市でもこの制度の利用を検討すべきと考えるが、現在の状況を踏まえ、来年度以降の取組について何う。</p>	中野市長
<p>7 市民生活を守る持続可能な水道事業のために</p> <p>(1) 水道料金の改定について</p> <p>(2) 料金改定における効果について</p>	<p>市民生活を支える上水道の老朽化したインフラの更新や防災対策の強化のため、水道料金の値上げは避けられない重要な取組であると考え。市民の皆様は値上げの必要性を理解いただくため、以下について何う。</p> <p>(1) 9月定例会において、市長から「市民生活への影響を考慮しつつ」との改定案についての答弁があった。そこで、市民生活への影響を考慮した改定案の検討状況とその真意について何う。</p> <p>(2) 今年度末に策定予定の浜松市上下水道基本計画では、持続可能な経営の推進を掲げ、市民からのパブリックコメントを経て策定される予定である。9月定例会で表明した通り水道料金を20%前後引き上げた場合に得られる収益による財務状況と、今後10年間の計画において特に重点を置く事業について何う。</p>	<p>中野市長</p> <p>内藤水道事業及び下水道事業管理者</p>